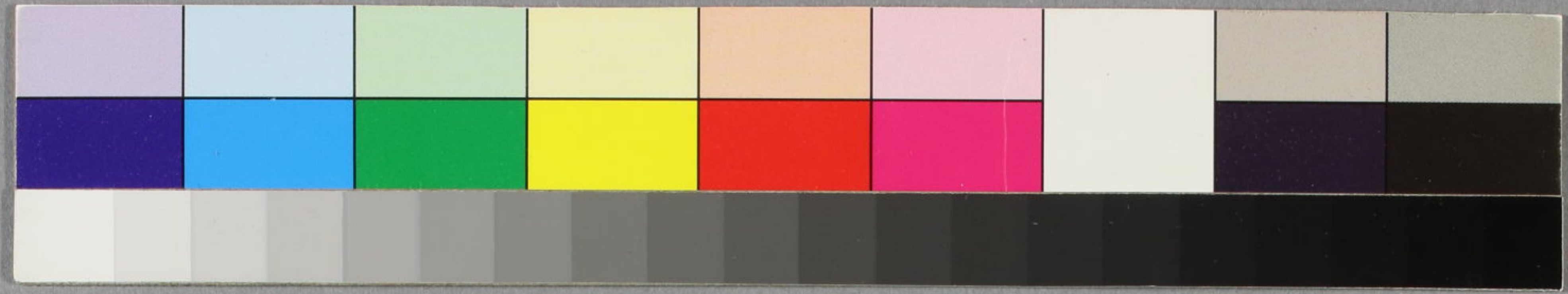


役者評判記

天保
3849
7





元禄十七年
書子

~~多
1039
87~~

天13
3849
7



門子多13
號 1439
番 57



江戸巻

月録

玉川文庫

紙子も心りまき

あきま

うらまの川

ととて打ちまき

大横子

仕合とあまのたき

七通のりまき

まきまき

まきまき

初まうくま本丸

むろいごうそ武蔵の

ふりふれ

半島代

けいふくしる舌の

あうしる

けりしる

まうりぬふ南世の

ふが

江戸之居惣役者目録

まうし町 中村勘三郎

まうし町 市村新三郎

まうし町 山村長五郎

同町 栗田勘三郎

かきりぬいん

●中村屋を夜に都

上上吉 中村七三郎

上上吉 中村徳九郎

上 中村徳八郎

中上 藤あふぬ

中 長川信次中 山中信六

中 松山勘三郎 中 西村九郎

▲同教役之部 十八日ヨリ
九丁目迄

上吉 山中平九郎

上上 横山六郎次

▲同道外之部 二十丁目

上 西本兵助

▲同若女方之部 又二丁目ヨリ
又五丁目迄

上上 早川妙藏

上 紫澤小次郎

中上 竹中世之助

中松卷若三之助 中村源三

中 高橋元次郎 中 紫澤宗兵衛

以若女方十人評判あり

▲同若女方之部 又六丁目

聖 中村小次郎

中 中村孝之助 中 中村教三

中 吉川吉兵衛 中 中村初太郎

中 卷田小八

▲同親仁方之部 目丁目

中上 藤巻重兵衛

▲同若車方之部 又七丁目

上上 丸近保三郎

中 松山金次郎 中 坂井新助

●市村彦三郎 又七丁目ヨリ
又五丁目迄

上上吉 市川周十郎

上上 生島新次郎

上 村中平次中上 松平小吉

中上 生島半六中上 市川吉兵衛

▲同教役之部 又二丁目

上上 中澤勘九郎

上 中澤之吉中上 早川徳次

▲同道外之部 平三目

生上 南川源次郎

▲同若菜方之部 平三目
平三目

生上 生鶴大右

生上 津川半吉

生上 谷田小源次

生上 芳隆川兼次 中 坂田夜郎

中 赤川大助 中 上村之丞

▲同若菜方之部 平三目

生上 栢中全作

生上 中川半吉

中 斎藤重吉 中 西川万吉

▲同親仁方之部 平三目

生上 大熊守吉

▲同花軍方之部 同三目

生上 上村新三郎

● 赤田屋重俊之部 平三目
平三目

生上 市川團三郎

生上 多門左衛門

生上 坂东又九郎

生上 兼山長右衛門

生上 文勝十郎

生上 赤田外右衛門

生上 赤田勘次郎 中 松村源八

▲同款俊之部 平三目

生上 齋川吉平次

生上 大島九郎次

▲同道外之部 平三目

生上 金沢平六

上 三山寺住持

▲同教方之部 同丁目

中上 田村定次郎

▲同若女方之部 壬午丁目
壬午丁目

上書 萩野次郎

上 松平勘定郎

中上 市川竹之助

中 生島孝之助 中 市川万葉

中 柴藤大助 中 柴藤多孫

▲同若女方之部 壬午丁目

上 松平平吉

中 市川為之丞 中 松平小倉

▲同若女方之部 壬午丁目

中 衣笠平兼 中 萩野源次

●山村登夜之部 壬午丁目
壬午丁目

上書 文清傳吉

上 村山平右衛門

上 坂本全吉郎

上 橋山又次郎

中 山本春雄 中 市川和隆

中 徳田平次 中 中村徳太郎

中 吉田六次郎 中 市川又之丞

中 荒井三八 中 市川又之丞

中 柴藤大助 中 中村徳太郎

▲同教方之部 壬午丁目

上書 大谷廣右衛門

上 富沢定之部

中上 小川善次郎

▲同道外之部 同丁目

上書 西宮三太郎

中々 仙石五郎

▲同若女房之部 平八目川 平九目川

上上 沢村小作次

中上 小堀川初之助

中上 水本海之助

中上 柴本清之助 中 生徳新助

中 玉川吉盛 中 後田吉之

▲同若丸方之部 平丁目

中上 水本海之助

中上 後津海之助 中 徳吉小吉

▲同親仁方之部 同丁目

上書 田中源八

▲同花車方之部 同丁目

上書 小島吉之助

上書 小島吉之助 同丁目

役名簿扇子

ゆきとれとて名宗廣徳人

ゆきとれとて名宗廣徳人

役名簿判とらんをいふなりと

ゆきとれとて名宗廣徳人

ゆきとれとて名宗廣徳人

ゆきとれとて名宗廣徳人

ゆきとれとて名宗廣徳人

ゆきとれとて名宗廣徳人

ゆきとれとて名宗廣徳人

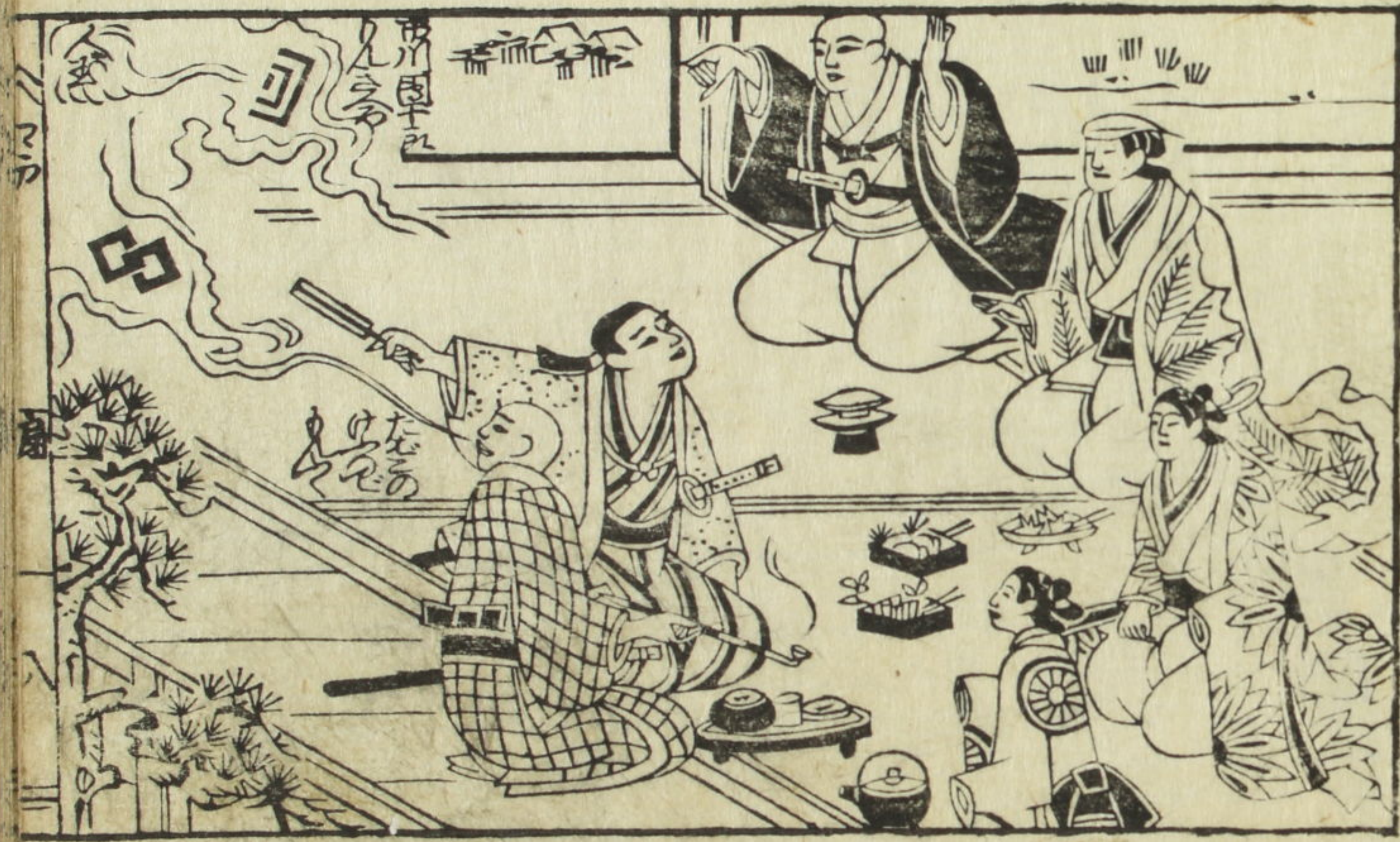
ゆきとれとて名宗廣徳人

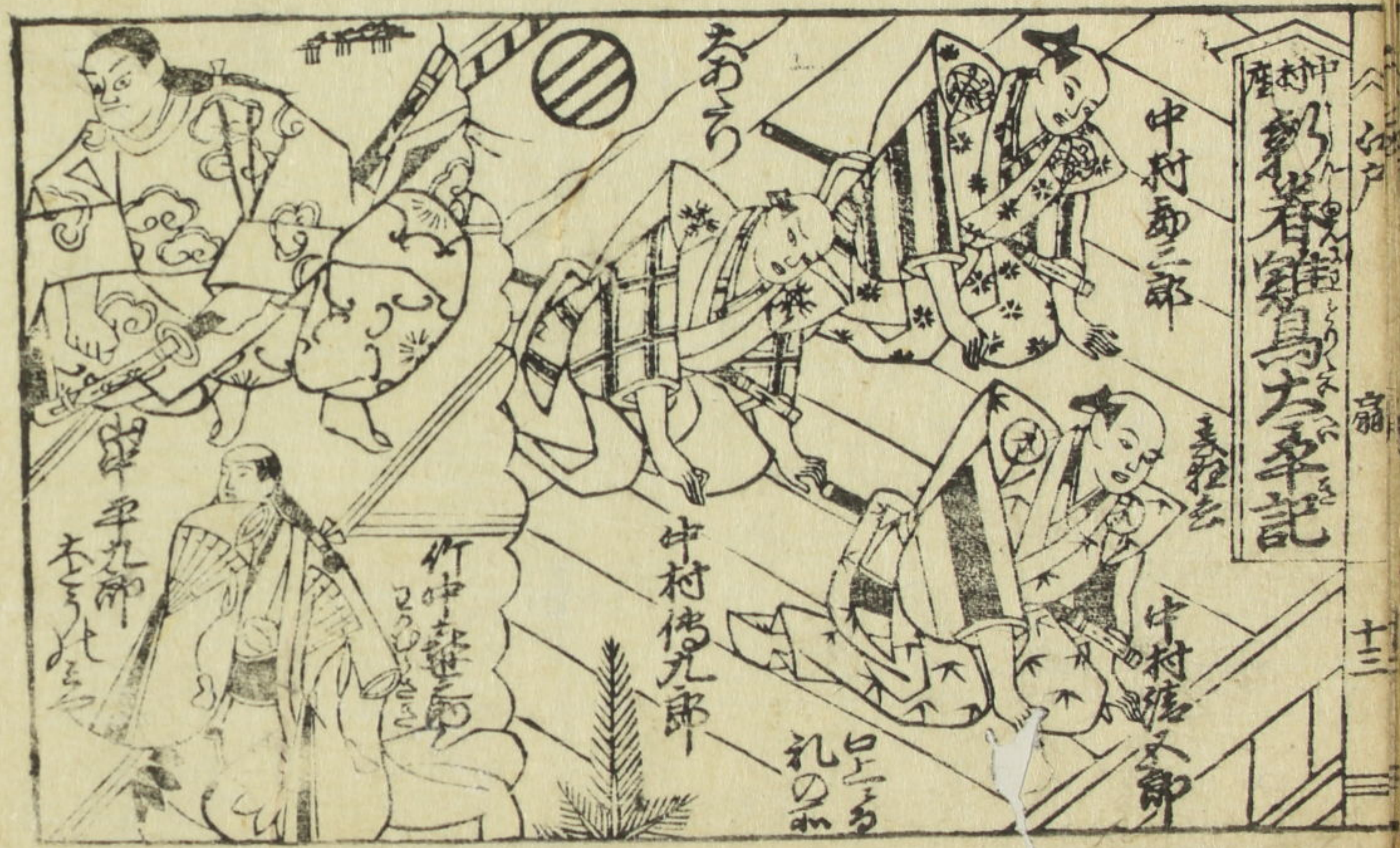
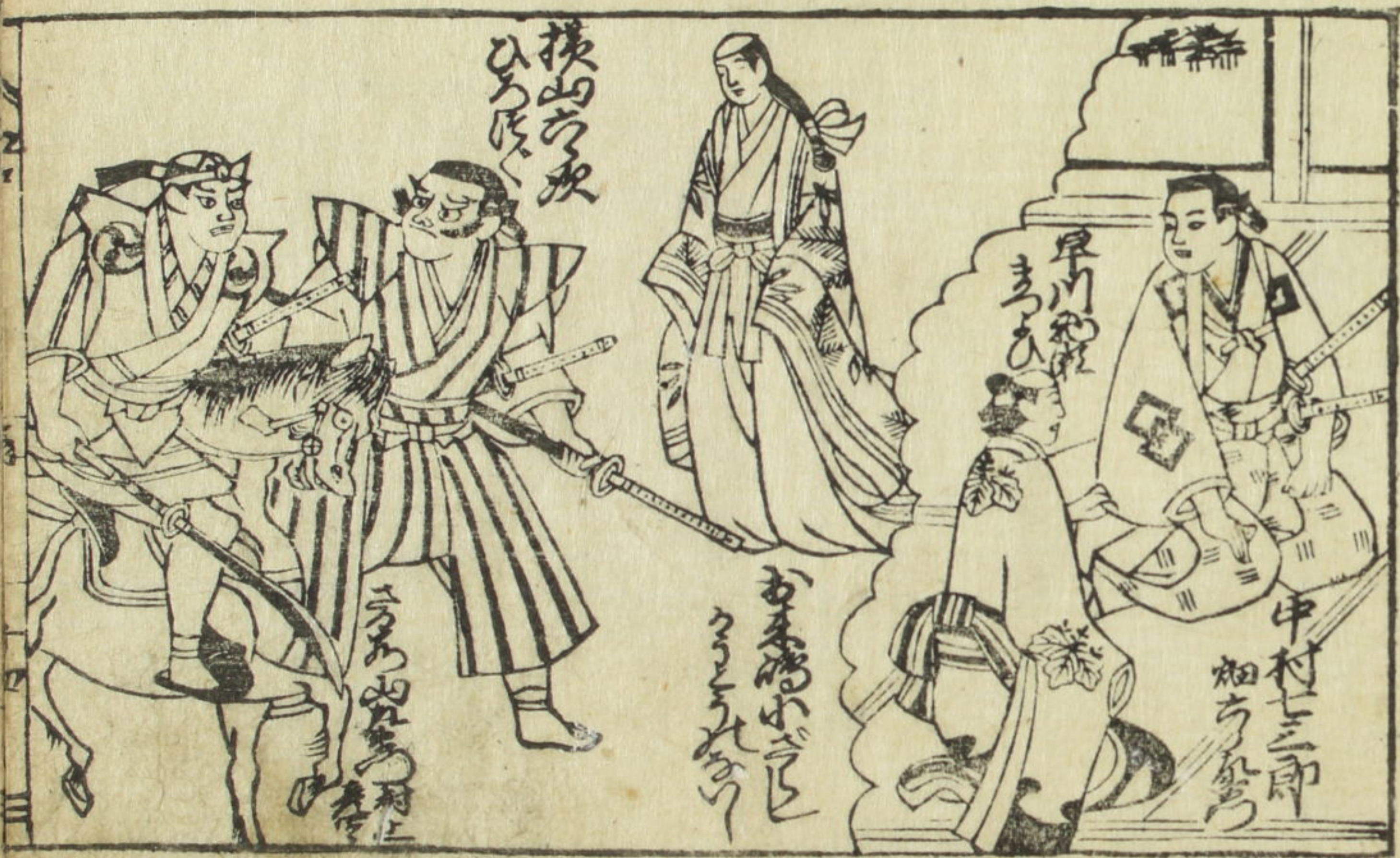
ゆきとれとて名宗廣徳人

ゆきとれとて名宗廣徳人

ゆきとれとて名宗廣徳人

ゆきとれとて名宗廣徳人





中村七三郎
しらゆき
おきつね
中村九郎
中村七三郎
しらゆき



市川源氏六十帖

春巻

十九



田代貞と盛平様市人御書本
つらと申す御書本は、
西宮御書本は、
さう御書本は、

▲中村御書 ▲吉川吉原

▲中村御書 ▲吉田小八

右の御書本は、
左の御書本は、

右の御書本は、
左の御書本は、

親方と部

中上 〇 藤吉と吉原

藤吉と吉原
御書本は、

御書本は、

花車方と部

上々 〇 九七伴と部

御書本は、
御書本は、

御書本は、
御書本は、

御書本は、
御書本は、

御書本は、
御書本は、

御書本は、
御書本は、

▲山村座

五段七部

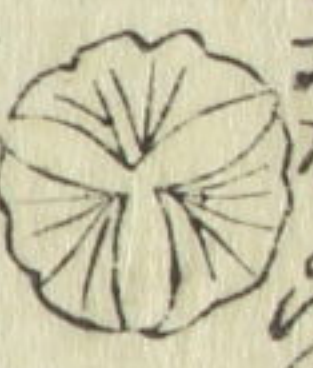
とく者回

多川侍七郎

実此座の名代侍は後編三巻の
 ころろとありて然れは河内守を
 中まゝおつて女侍のふりかへす
 依代守ありて名代侍多川侍七郎
 あり多しは若知れは後編三巻
 氏は若知れは後編三巻
 天鼓がりま出立敷く相見候
 事よもまゝありて女侍のふりかへ
 相見候のふりかへは後編三巻
 此座の御方物に然れども
 出立候は先づ相見候と
 候

せりあつたりひかりのまのまが非
 地は又此の物語にありぬもの可
 次より荒まき事候とあるは
 しく遊ばしやておらん侍のふりかへ
 九巻のまゝありて先づせりあつ
 つまの次は虎とありて相見候
 控虎よのり初は相見候とありて
 えとてつと相見候とありて
 よめせりあつたりとありて
 虎は彼より出て来るものあり
 ありて相見候とありて
 ありて相見候とありて
 の名代侍のふりかへは後編三巻
 此座の御方物に然れども

うき世を憂ふ神七巻のりてあらはるる
いなり海神をとりぬらうとてまゝの源氏
(此の切敷とてあらうがらふとてなほまゝに
後切とておがまへしうとておがまへし



松平小左衛門

去るまじき書簡をとりてあらはるる
あらはるるの書簡をとりてあらはるる
左様とておがまへしうとておがまへし
此の切敷とてあらうがらふとてなほまゝに
後切とておがまへしうとておがまへし
中とて

生島半平

何れは世帯をとりてあらはるる
何れは世帯をとりてあらはるる
何れは世帯をとりてあらはるる
何れは世帯をとりてあらはるる
何れは世帯をとりてあらはるる

何れは世帯をとりてあらはるる
何れは世帯をとりてあらはるる
何れは世帯をとりてあらはるる
何れは世帯をとりてあらはるる
何れは世帯をとりてあらはるる



市川善次郎

何れは世帯をとりてあらはるる
何れは世帯をとりてあらはるる
何れは世帯をとりてあらはるる
何れは世帯をとりてあらはるる
何れは世帯をとりてあらはるる

秋後之部



中務卿在

何れは世帯をとりてあらはるる
何れは世帯をとりてあらはるる
何れは世帯をとりてあらはるる
何れは世帯をとりてあらはるる
何れは世帯をとりてあらはるる

い知深きなり竹葉を七片葉を以て爲す
中より九片をとりてわたり此をまじりて
細粒を飛揚せしめて赤くはれぬまじり

親方部

上 回 金言書局の

はまの四神(うし)と虎(こ)とを以て繪(え)きたるは
此(こ)の書(しよ)に載(ま)りたるは
親(おや)と孫(まご)とを以て繪(え)きたるは

花車方部

中々 射新部

法(はふ)を以ててしり。此(こ)の書(しよ)に載(ま)りたるは
後(ご)ちがわたりし。びりてを以ててしり。此(こ)の書(しよ)に載(ま)りたるは
しり。此(こ)の書(しよ)に載(ま)りたるは

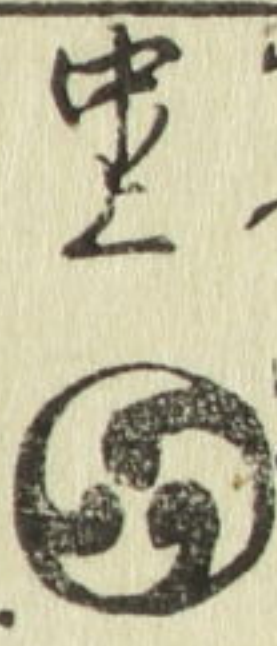
▲森田座

立役部

上々 回 市川團十郎

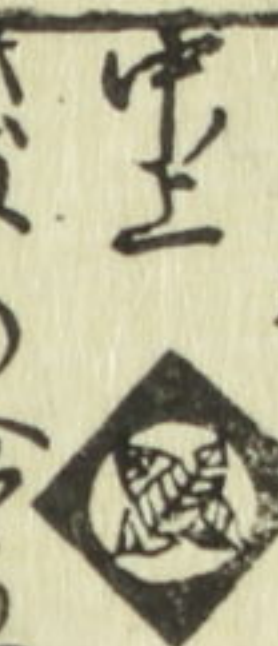
新(あらた)に流(なが)れあひぬる所(ところ)にまゐりたるは
上(うへ)と云(い)ふは此(こ)の書(しよ)に載(ま)りたるは
百(もも)花(はな)の立(た)役(やく)を以ててしり。此(こ)の書(しよ)に載(ま)りたるは
志(こころ)を以ててしり。此(こ)の書(しよ)に載(ま)りたるは
あまのつゆ。あまのつゆ。あまのつゆ。あまのつゆ。
依(よ)りて。依(よ)りて。依(よ)りて。依(よ)りて。
此(こ)の書(しよ)に載(ま)りたるは。此(こ)の書(しよ)に載(ま)りたるは。
わたり。わたり。わたり。わたり。
此(こ)の書(しよ)に載(ま)りたるは。此(こ)の書(しよ)に載(ま)りたるは。
此(こ)の書(しよ)に載(ま)りたるは。此(こ)の書(しよ)に載(ま)りたるは。

とある家... 氏名... 松村



中上 文陽十郎

松村... 氏名... 松村



中上 森田

松村... 氏名... 松村



中上 森田

松村... 氏名... 松村




中上 松村

松村... 氏名... 松村



中上 松村

後夜は、小村の御所を去りて、東に流れて
りゆり、ある所を、此の山を、さるべきに
ゆり、此の山を、さるべきに、御所を、
中  志門八
後夜は、東に流れて、此の山を、さるべきに、
小池を、坊を、依りて、さるべきに、御所を、
去り、御所を、さるべきに、さるべきに、
て、御所を、さるべきに、

歌夜と都



此川志平次

志平次、此の山を、さるべきに、
志平次、此の山を、さるべきに、
志平次、此の山を、さるべきに、
志平次、此の山を、さるべきに、
志平次、此の山を、さるべきに、

志平次、此の山を、さるべきに、

中上



志平次

志平次、此の山を、さるべきに、
志平次、此の山を、さるべきに、
志平次、此の山を、さるべきに、
志平次、此の山を、さるべきに、
志平次、此の山を、さるべきに、

道化と都

上



志平次

志平次、此の山を、さるべきに、
志平次、此の山を、さるべきに、
志平次、此の山を、さるべきに、
志平次、此の山を、さるべきに、
志平次、此の山を、さるべきに、

いふれども思ひ出さるる人々あり
生れはばなま相と氣をてし体とをいふ



中 夜田者三郎

去るより南の山を越えしよりして其の
まよあはれありあはれなき相と氣をいふ
おとめをたおすことぬまよのまよと
らぬれども其の後をえりしをいふ
おはれりしは流れをえりしをいふ

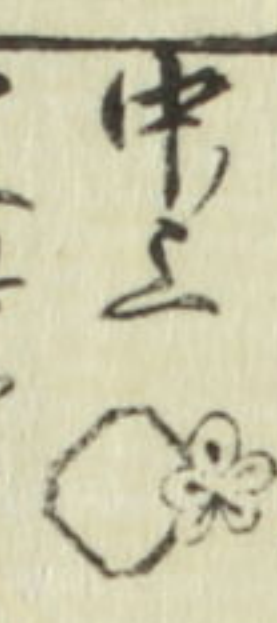
中 為元者三郎



中 水本者三郎

おとめをたおすことぬまよのまよと
らぬれども其の後をえりしをいふ
おはれりしは流れをえりしをいふ
おとめをたおすことぬまよのまよと
らぬれども其の後をえりしをいふ

刀をたおすはばなま相と氣をいふ



中 漢海者三郎

おとめをたおすはばなま相と氣をいふ
おとめをたおすはばなま相と氣をいふ
おとめをたおすはばなま相と氣をいふ

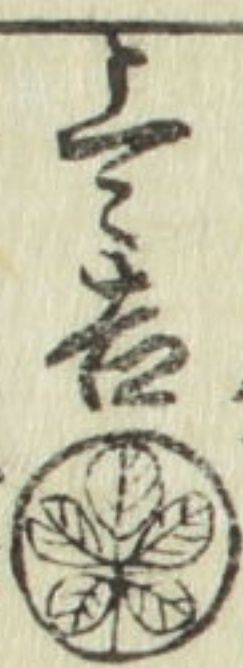
中



中 袖者三郎

去るより南の山を越えしよりして其の
まよあはれありあはれなき相と氣をいふ
おとめをたおすことぬまよのまよと

中 執仁者三郎



中 三太郎

おとめをたおすはばなま相と氣をいふ
おとめをたおすはばなま相と氣をいふ
おとめをたおすはばなま相と氣をいふ

水邊
わごまごうてを別何か
と所内を川邊にありて
此後より此の趣をとりて中
へいを後判せよとて
すはる。三月十九日
て例ハ船よりなる
次子かぐ二所の
目被赤き
元のより狂
ちごうつり

元禄十七甲申年卯月廿日

藤通寺所
正本屋元禄十七年



